

小学校 家庭科

1 改訂の趣旨及び要点

目標の改善

育成をめざす資質・能力を三つの柱により明確化し、整理しました。

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、**生活をよりよくしようと工夫する資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の習得

家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、**日常生活**に必要な**基礎的な理解**を図るとともに、**それらに係る技能**を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、**課題を解決する力**を養う。

学びに向かう力・人間性等の涵養

家庭生活を大切に**する心情**を育み、**家族や地域の人々**との関わりを考え、**家族の一員**として、**生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度**を養う。

「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ」とは？

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、**協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築**等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫すること。

内容構成の改善

小学校・中学校ともに、3つの内容とし、系統性の明確化を図りました。

～育成する資質・能力の明確化～

各内容の各項目はア・イの2つの指導事項で構成

ア「知識及び技能」の習得

イ「思考力・判断力・表現力等」の育成

現行学習指導要領
A 家庭生活と家族
B 日常の食事と調理の基礎
C 快適な衣服と住まい
D 身近な消費生活と環境



新学習指導要領
A 家族・家庭生活
B 衣食住の生活
C 消費生活・環境

【例】 A 家族・家庭生活 (2) 家庭生活と仕事
 ア 家庭には、家庭生活を支える仕事があり、互いに協力し分担する必要があることや生活時間の有効な使い方について理解すること。
 イ 家庭の仕事の計画を考え、工夫すること。

改善のポイント

知識及び技能の確実な定着を図るための内容の充実

B (2) 「調理の基礎」→ゆでる材料として**青菜やじゃがいもなど**

B (5) 「生活を豊かにするための布を用いた製作」→**日常生活で使用する物を入れる袋**などの製作

一部題材の設定

CHECK!

知識及び技能を実生活で活用するための内容の充実

A (4) 「家族・家庭生活についての課題と実践」【新設】

内容 B・C と関連を図り、一つ又は二つの課題を設定して履修。実践的な活動を家庭や地域などで行うことができるよう配慮。

CHECK!

社会の変化に対応した各内容の見直し

「A 家族・家庭生活」 少子高齢社会の進展への対応→ **幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わり**【新設】

「B 衣食住の生活」 食育の一層の推進、グローバル化への対応→ **住まいの主な働き**【新設】、**だしの役割** (日本の伝統的な生活)

「C 消費生活・環境」 持続可能な社会の構築への対応→ **買物の仕組みや消費者の役割**【新設】

CHECK!

2 小学校家庭科における授業づくりのポイント

【例】 (住生活) 題材名「身の回りをきれいにしよう」 第6学年 全9時間

ポイント1

家庭科における「主体的・対話的で深い学び」の実現とは？

「主体的な学び」	・自分の生活の問題を見つめ直し、学習の見通しや生活の改善の見通しをもって課題の解決に向けて取り組む。
「対話的な学び」	・家族や地域の人々、友だちとの会話や適切な清掃に関する資料を通して自分の考えを明確にする。 ・グループで意見を交流する活動を通して、よりよい方法を見いだそうとする。
「深い学び」	・課題解決に向け、見方・考え方を働かせて考えたり構想したりする。 ・学んだことを活用し、実生活をよりよくするために、新しい課題を見つけて解決しようとする。

ポイント2

生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成

実生活と関連を図り、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する学習活動を効果的に取り入れることが必要。

※学習過程を通して、課題を解決できた達成感や、実践する喜びを味わい、次の学習に主体的に取り組むことができるようにします。

※2学年間を見通して題材を計画的に配列し、課題を解決する力を養います。

ポイント3

【学習過程の参考例】

指導計画例

生活の課題発見	生活の中から問題を見出し解決すべき課題を設定する。	「なぜ汚れるのか、何のために清掃するのか考えよう！」 ①学校の中で、よく使う場所の汚れを調べる。 ・調べたことを校内の図に印をつけるなどしてまとめ、情報を共有する。 ②清掃の必要性を考える。 ・体験を基に清掃について見直し、なぜ汚れるのか、何のために清掃するのかを考える。 ※快適な生活をするために、清掃が必要であることに気付くようにする。
	知識及び技能を習得し、解決方法を検討する。	「どうすれば汚れが落ちてきれいになるのだろう？」 ③汚れの種類を調べ、汚れに応じた清掃の仕方を理解する。 ・汚れに応じた清掃が適切にできるように練習する。 ※個の技能の習得状況に応じた指導の充実させる。 ※洗剤の取り扱い方に関する注意事項を確認する。
課題解決に向けた実践活動	計画をたてる。	④清掃の計画を立てる。 ・学んだことや経験を活かし、清掃の計画を考える。 ・グループで意見を交流し、計画を改善する。 ※複数の方法を計画に入れ、汚れの落ち方を比較できるようにする。
	知識及び技能を活用する。	「計画を試してみよう！～汚れははたして落ちるのか！～」 ⑤⑥学校で実践し、方法を検証する。 ・清掃の計画を実行し、汚れの落ち方を検証する。 【配慮事項】 調理、製作等の実習や、観察、実験などの 実践的・体験的な活動を重視します。
実践活動の評価・改善	結果を評価する。	⑦実践を振り返り、計画を見直す。
	改善策を検討する。	・結果をまとめて発表し、計画の評価・改善を行う。 ・家庭における新しい課題を見だし、清掃計画を立てる。
家庭・地域での実践	改善策を家庭・地域で実践する。	「身の回りをきれいにしよう～クリーン大作戦！～」 ⑧家庭で実践する。 ⑨実践の報告会を行う。 【配慮事項】 知識及び技能などを生活に生かし実践できるよう、 家庭や地域との連携を図ります。

【ICTの効果的な活用】

画像、動画資料の提示
(課題確認)

清掃前後の写真を提示。(興味・関心を高め、意欲的に取り組めるよう工夫)

拡大、動画機能の活用
(内容理解)

インターネット(情報収集)
ソフトウェア(計画作成)
タブレット端末(交流)

動画資料の提示(作業工程確認)
タブレット端末(記録)

工程や結果を撮影して比較・評価の材料とします。

タブレット端末(評価)
電子黒板(発表、共有)

思考の過程や結果の可視化、考えたことの共有、情報収集、編集などの学習場面で活用します。